

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図ることが大切です。その実現に向けて、ICTを活用し、全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させるための「『はばたく群馬の指導プランⅡ』ICT活用Version」（以下「はばプラⅡICTver.」）が完成しました。そこで、ICTを活用した『授業改善』のポイントについて、「はばプラⅡICTver.」を基に紹介します。

道徳の授業でICT、特に1人1台端末を活用してみたいと思っています。授業の導入で、生徒に関心をもたせるために、動画資料を見せたいなどは思っているのですが・・・他に何か良いアイデアはありませんか。



道徳の授業は、話し合いを通して個人の道徳的価値の理解を深めることが大切です。そこに上手くICTを活用させていきたいですね。



そこが難しくって…。これまで行ってきた授業では、生徒が「本音」を言い合うような話し合いができていないんですよ。ICTを使って、一人一人の意見を生かした授業がしたいと思っています。



なるほど、ICTを使った「個別最適な学びと協働的な学び」を実践したいということですね。

それでは、群馬県教育委員会が示している「はばプラⅡICTver.」を参考に授業づくりを考えてみましょう。



なるほど！「はばプラⅡICTver.」は、全ての教科等で展開例とともに、ICTの活用例が個別最適な学びと協働的な学びに分けて、大事なことが示されているんですね。



それでは、「はばプラⅡICTver.」道徳編を基に、ICTを活用した授業を「導入」から考えてみましょう。道徳編（「はばプラⅡICTver.」道徳編参照）を見ると「教材に関心をもたせるために、動画資料を視聴させたり、扱う道徳的価値への事前意識に関するアンケート結果をグラフにして可視化したり…」等がありますがどうですか。考える際には下記の「道徳科の授業構想のポイント」も大切にしましょう。

道徳科 授業構想のポイント

導入	<p>1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒の問題意識を基に、学習のめあてを設定する。 □児童生徒が、本時で扱う道徳的価値について問題意識をもって授業に臨んでいるか。
展開	<p>2 教科書の教材文の範読を聞く。</p> <p>3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多面的・多角的に考えることのできる中心発問をする。 ○中心発問に対する児童生徒の考えに対し補助発問をする。 □道徳的価値の理解を、自分との関わりで深めているか。 □物事を一面的な見方から、多面的・多角的な見方へと発展させているか。 <p>4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。</p>
終末	<p>5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> □深まった道徳的価値の理解を基に、これまでの自己を振り返り、気付いた自分自身のよさや課題から、よりよい自己の生き方への思いや願いを深めているか。
<p>○ 指導上の留意点</p> <p>□ 「考え、議論する道徳」のチェックポイント</p>	

「導入」では生徒に関心をもたせるために動画資料を見せたいと考えていましたが…。生徒に問題意識をもたせることが大切なので、アンケートをとって結果を示すというよりは、今の個人の考えをはっきりさせたいと思います。



それでは、授業支援ソフトのカード機能を使って問題意識を記入させ、全員がその状況を閲覧できるようにしたらどうですか。「みんなはこんな風に考えているんだ」と自分との違いに気づき、本時で扱う道徳的価値について問題意識をもってくれればいいと思います。

そうですね。アンケートよりも個人の考えがはっきりしますね。また、授業後の意識の変化を見るためにも良いですね。評価にもつなげることができそうです。



このように、道徳編の例示に限らず、教師の意図に沿って適切なICTの活用を考えていくことが大切ですね。



次に「展開」です。最も大事なことは「中心発問」に対して、生徒がどのように道徳的価値に迫っていくかですね。

ここでもカード機能を使えそうだけど、ばらばらの考えだと話し合いが深まらないし、ワークシートに書いて発表させても同じですかね。



書いたものを発表し合うだけだと、発言力のある生徒の意見が中心になってしまいますね。道徳編に例示されているように、キーワードだけを書かせて話し合うという方法はどうですか。

そうか、今度は付箋機能を使って、キーワードによる話し合いができそうです。



付箋なら画面上で移動もできるので、同じ意見を並べたり、異なる意見を比較したり、考えを積み重ねたりすることで、一人一人の考えが深まっていくと思います。さらに、考えを深めるために、全体の場での問い返しやゆさぶり等の補助発問も大切になりますね。

この方法で話し合いをすれば、課題だと思っていた生徒の「本音」を引き出せそうです。



このように「はばプラⅡICTver.」の例示を基に、教員同士の話し合いを通して、効果的なICTを活用した授業づくりができます。さて、今回の授業づくりから見えてきた『ICTを活用するときのポイント』を2つ挙げますので、みなさんも心掛けてください。

- ①身に付けさせたい資質・能力を基に、授業構想を練ること
- ②ICTのよさを把握し、構想した授業の中で活用の目的や有効に活用できる場面を明確にして使用すること



「『はばたく群馬の指導プランⅡ』ICT活用Version」は、群馬県総合教育センターのHPからダウンロードすることができます。随時更新もされています。また、本事案は、管内の実践推進校の授業を基に作成しています。総合教育センターのHPの実践事例にも載っていますので、参考にしてください。